

平成 25 年度 舢倉島夏期総合診療実施報告書

平成 25 年 8 月 19 日
舢倉診療所長 中島 崇志

平成 25 年度の舢倉島夏期総合診療は石川県、輪島市の共催により平成 25 年 8 月 3 日（土）、4 日（日）の両日にわたり実施されました。関係者の方々のご尽力により予定通りの日程で無事に終了致しました。お力添えをいただいた関係者の皆様に深く感謝するとともに、ここに本年度の実施状況を報告致します。

1. 趣旨

専門医療の機会に恵まれない離島の住民に対して「耳鼻咽喉科、整形外科、眼科、内科、特定健診」診療を実施し、もって舢倉島住民の保健医療の向上を図る。また今年度はこれらの健診に加えて初の試みとしてピークフローを行った。

2. 日程

平成 25 年 8 月 3 日（土）午後 1 時～午後 5 時

8 月 4 日（日）午前 9 時～正午（眼科は午前 11 時～午後 2 時）

3. 診療科目、場所

石川県輪島市海士町所属舢倉島出邑山 1-4 舢倉島総合開発センター

耳鼻咽喉科：コンピュータ室

整形外科：レントゲン室

眼科：事務室

内科：診察室、保育室

特定健診：保育室

ピークフロー：保育室

受付：玄関ロビー

4. 診療従事者

耳鼻咽喉科	小森 貴	医師（小森耳鼻咽喉科医院）
	垣内 美香	看護師（県立中央病院）
整形外科	山本 憲男	医師（金沢大学附属病院）
	干場 博子	看護師（市立輪島病院）
眼科	山本 ひろみ	医師（やまもと眼科クリニック）
	金嶋 菜美恵	看護師（県立中央病院）
内科	堀田 祐紀	医師（心臓血管センター金沢循環器病院）
	西 孝幸	医師（市立輪島病院）
	谷内 淑子	看護師（市立輪島病院）
特定健診	浜高 康夫	臨床検査技師（市立輪島病院）
	山本 久信	臨床検査技師（市立輪島病院）
	谷 賢之	臨床検査技師（市立輪島病院）
レントゲン撮影	古田 正史	技師（市立輪島病院）
受付	東谷 俊也	（県庁地域医療推進室）
	末林 真紀	（県庁地域医療推進室）
	橋本 洋文	（県庁地域医療推進室）
	堂下 春菜	（県庁医療対策課）
	木下 充	事務次長（市立輪島病院）

診療補助	出島 彰宏 医師（県立中央病院） 坪川 詩乃 医師（県立中央病院） 富木医療器株式会社、株式会社ニデックより合計 3 名
運営	中島 崇志 医師（舳倉診療所）

5. 受診状況と問題点・今後の改善案

平成 25 年度は、のべ人数 139 名、実人数 73 名の方が受診された。各科の受診件数を下記に示す。

	内科	耳鼻科	眼科	特定健診	ピークフロー	整形外科	合計
25 年度	46	27	14	17	(8)	35	139
24 年度	46	23	8	18	None	None	95
23 年度	50	23	12	18	None	27	140
22 年度	46	28	25	13	None	33	145

※ 眼科は 8 月 4 日のみ

全体の傾向としては昨年まで減少傾向であったのべ受診人数および実人数が、再度上昇をみせたことである。

この要因としては

① 整形外科健診の再開

が主たる原因ではないかと考えられる。

実人数に比較して、延べ人数で大きな増加を認めたが、整形外科の受診人数が、ほぼ上乘せされる形でのべ受診人数が上昇している。これは、この島において整形外科検診の必要性を如実に表す結果となったと言える。

また昨年問題になった眼科受診者数の減少についてだが、こちらに関しては昨年・一昨年の人数よりも人数が増加する結果となった。これに関しては、5 月頃より基礎疾患のある方を中心とした定期受診者に対しての呼びかけを徹底し、広報を積極的に行った事により、昨年同様沖休みではなかったが、このような結果を得る事ができたと推察される。この事からも広報の重要性の高さが伺われる。検診である以上、本人の意思に基づき行われるものであるが、必要性の高い人にはこちらからも積極的にアプローチする事が大切であると言える。

次に各科の受診状況について考察する。次項以降に各科の受診状況をグラフにまとめたので参考にされたい。内科は 50 歳代以上の年代で概ね高い受診率を示している。一方で 60~80 代の男性は受診率が比較的低い。例年同様の結果ではあるが、この群では基礎疾患を抱える方が大多数であり、より高い受診率が望ましい。よりハイリスクな島民をピックアップするという意味では、こういった潜在的にリスクを抱えた方たちに如何に健診を受けてもらうかが課題といえる。今回ハイリスクの方に対しては積極的な呼びかけを行ったが、なかなか本人達の意識改革は難しい事を痛感させられた。診療所は任期が半年であり、総合診療時には赴任後 4 ヶ月となっているが、海女漁が本格的に始まる 7 月から初めてお会いする方達もおり、この島特有の生活スタイルに合わせた指導の仕方が重要になると考えられる。総合診療終了後の 8、9 月においても来年の総合診療に向けてしっかりと指導を行っていく事が重要だと言える。

眼科は 1 日のみの開催であり、尚且つ沖休みでなかったことから受診者は他科と比較して少ない結果となっている。しかし、昨年の反省を生かし、本年度は 4 月より基礎疾患のある人に対して、積極的に指導した結果、昨年・一昨年を上回る受診人数となり、特に眼科受診が重要だと思われる島民（基礎疾患に糖尿病あり etc）の受診数増加に結び付けることができた事は良かったと言える。眼科に関しても、今後も根気強い指導を行う事が受診人数増加の為に重要であると言える。

耳鼻科は高年齢・女性で受診者が多かった。海女漁という舳倉島特有の背景を反映したものと考えられる。

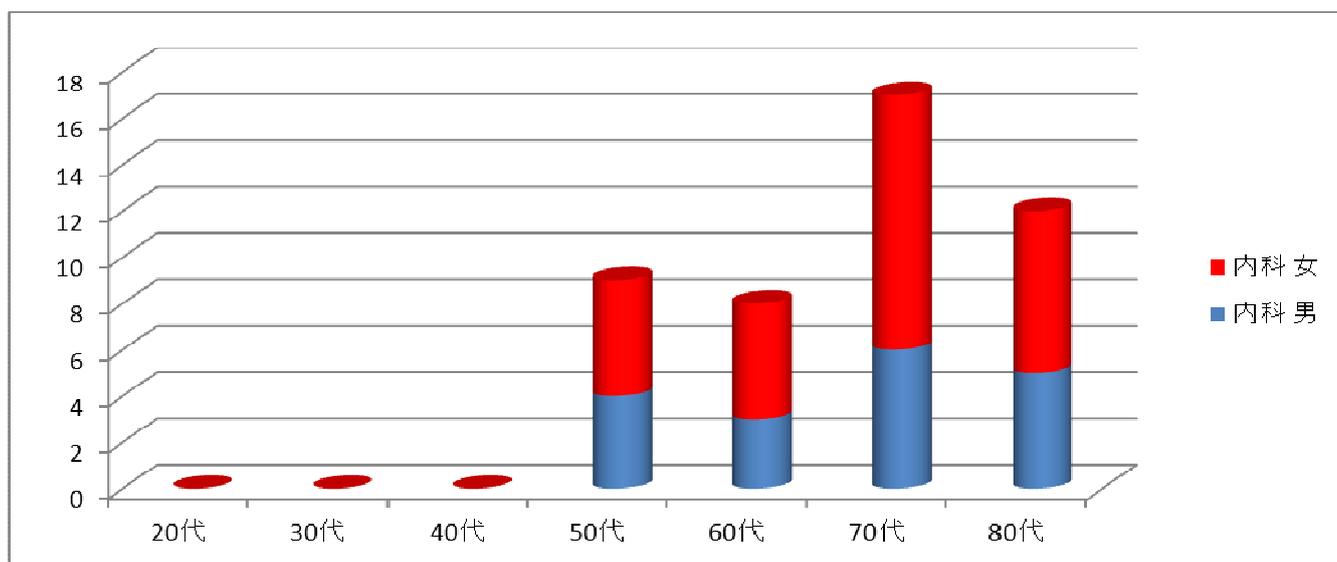
受診人数は減少傾向から横ばい傾向にあるが、現在の受診者の年齢層を鑑みれば今後はゆるやかに減少傾向が続くのではないだろうか。

整形外科は内科に次ぐ高い受診率であった。昨年行う事が出来なかった影響か、一昨年よりも受診人数は増加しており、島民にとって整形外科の総合診療の重要性を如実に表す結果となっている。整形外科のみでの受診者も数名おり、また世代間の受診者数の比率においては、若い世代の受診率が他科と比し高く、今後も整形外科の総合診療の必要性は高いように感じる。

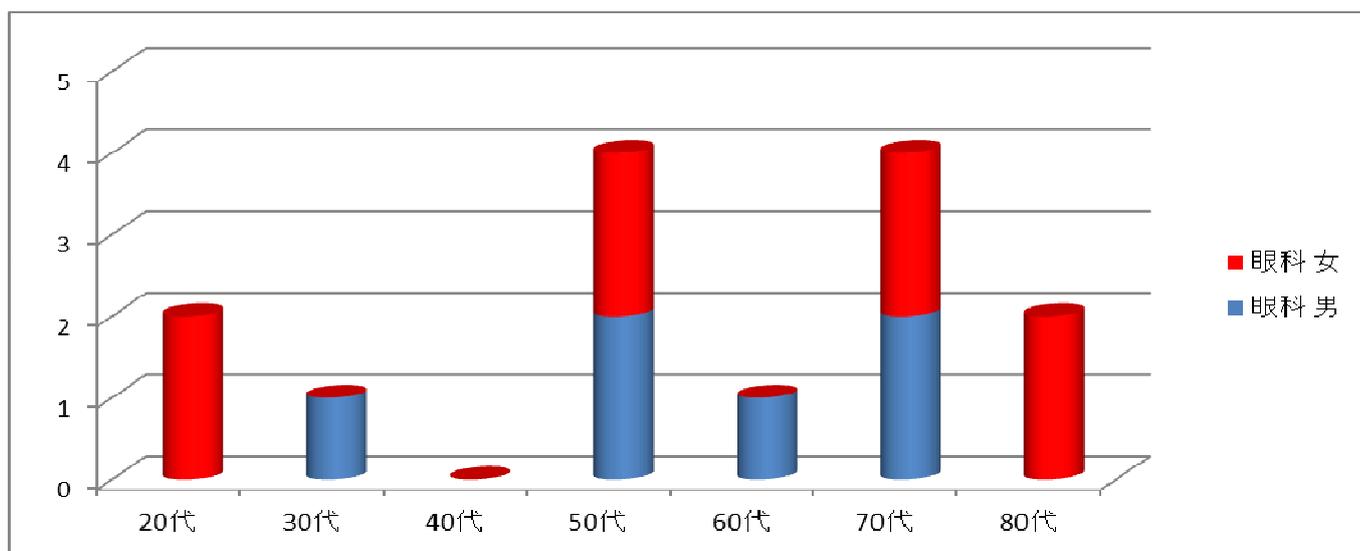
特定健診は年々認知度が上がっていることもあり、受診人数が伸びている。沖休みでさえあれば若年層も積極的に健診を受ける姿勢が伺える。

今年度、初の試みとなった「ピークフロー」については8名の受診となった。元々、対象者を限定したうえでの実施であったこと、検査の煩雑さ、物品数の問題もあり少ない人数となったが、必要性の高い島民の受診と島民の喫煙率の高さを考えると、重要な試みであったと言える。今回の結果を含め、今後の診療・総合診療に生かせるような形を模索していく事が肝要だと言える。

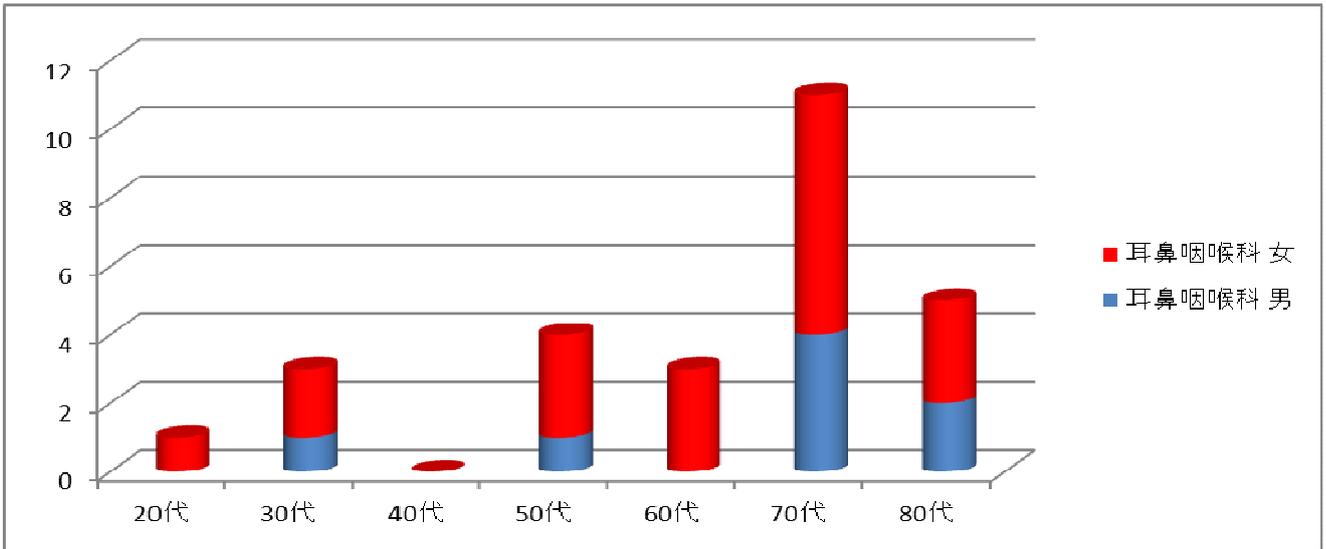
<内科>



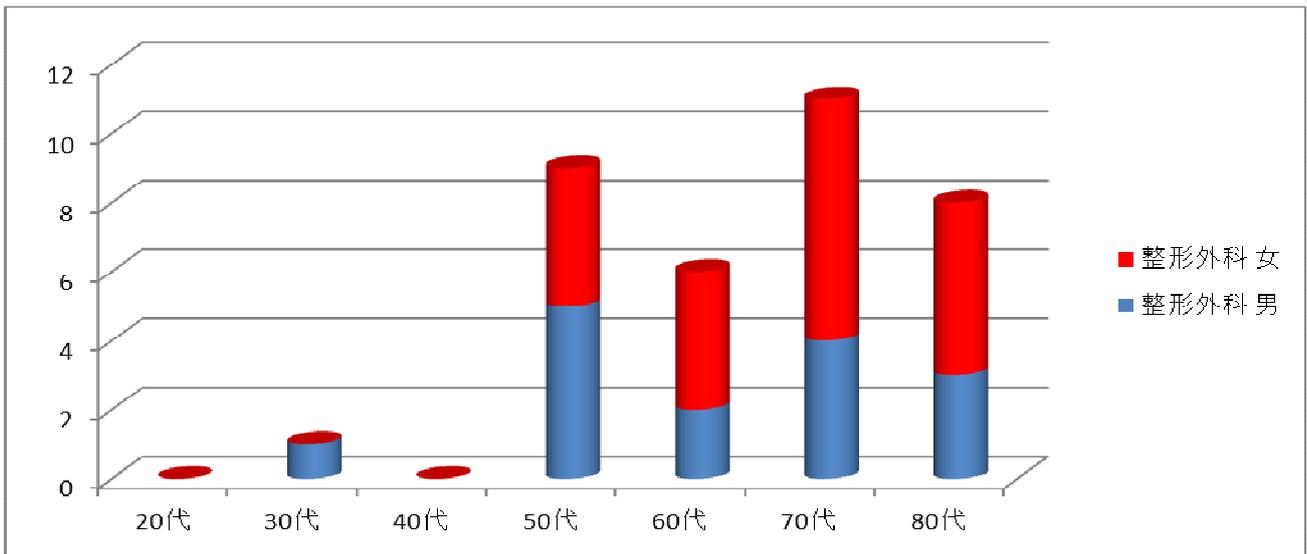
<眼科>



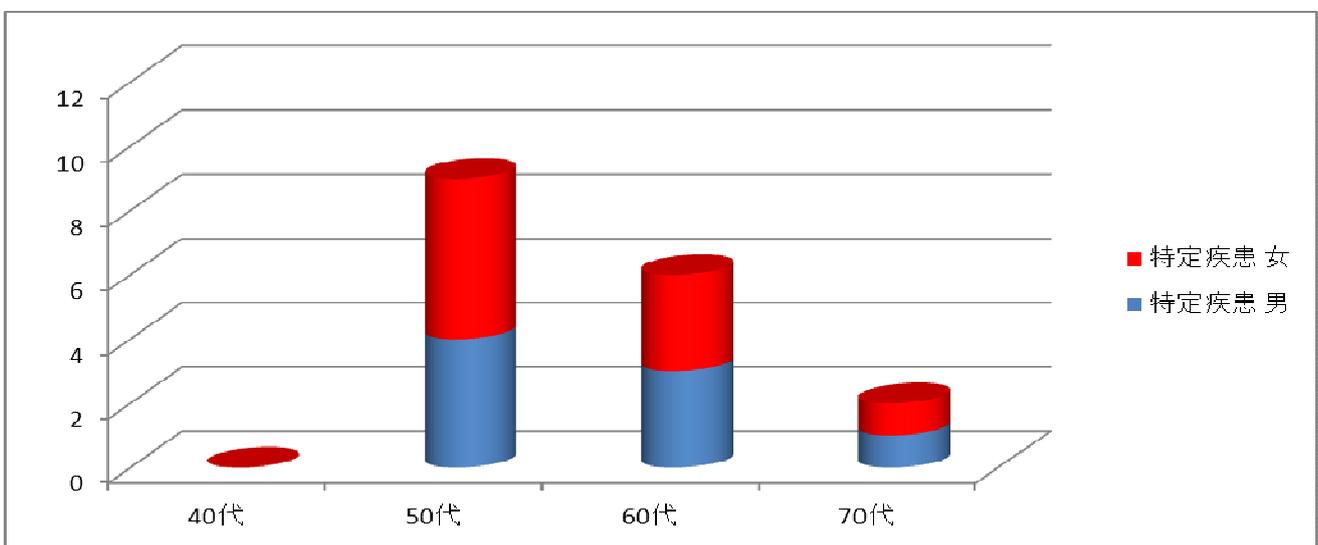
<耳鼻科>



<整形外科>



<特定健診>



6. 各科診療内容

<内科>

昨年度より引き続き、内科健診は心臓健診として堀田医師に担当して頂いた。島の高齢化および高血圧・糖尿病罹患率の高さより、循環器疾患合併者が多く、専門的視点からの診療がますます重要になってきていると思われる。H21年度から実施しているが、毎年大好評であり、今年度も46名と多くの受診があった。市立輪島病院西医師には堀田医師の診療補助について頂いた。受診希望の島民には事前に胸部レントゲン撮影と心電図記録をしておき、また当日は身長、体重、血圧測定を施行し、日々の診療と処方内容確認のため、全例通常診療カルテを参照頂いた。有所見者には心エコー検査を施行し、精査頂いた。また、昨年同様下肢の血管ドップラー超音波検査も併せて施行して頂いた。

結果では、目立った異常所見は閉塞性動脈硬化症、弁膜症および心拡大であった。そのうち1名の患者は心拡大および胸水の増加を認め、精査が必要であるとの判断に至った。本人希望もあり、総合診療2週間後に精査の方針となった。

その他、カテーテル治療を受けた受診者の治療後のフォローアップの予定など、専門的視点から治療方針の指導を頂いた。

<眼科>

昨年度に引き続き、今年度の眼科健診も山本医師に担当して頂いた。昨年度と同様、センター内事務室を暗室として使用し、無散瞳眼底カメラと手持ち眼圧計を借用して頂いた。また、カメラ設置のため富木医療器とニデックの業者の方に来島して頂き、準備から眼底撮影、視力測定までご協力を頂いた。無散瞳眼底カメラは撮影にかかる時間も短く、散瞳薬も不要であり、以前薬剤アレルギーなどで散瞳眼底検査ができなかった方も眼底を観察できるというもので、限られた時間の中での健診には非常に有用であると思われた。

受診者14名で、糖尿病網膜症、後発白内障など普段の診療において、なかなか専門的な診察・方針決定が難しい中で、専門医にしっかりと診察して頂けたことは、受診者・診療所双方にとって非常に有益な事と考えられる。島民の年齢・高血圧・糖尿病有病率を考慮すれば受診者を増やす事でより大きな成果が期待されるだけに、今後の参加者増加に向けての対策が大きな課題である。

<耳鼻咽喉科>

耳鼻咽喉科は昭和58年度から今年度に至るまで毎年総合診療に参加して頂いている小森医師に担当して頂いた。総合診療全般においても様々な面で支えて頂いている。診療内容は喉頭ファイバーでの咽喉頭の観察、および鼻腔内、耳腔内の観察等である。舳倉島住民の女性のほとんどは海女であり、かつてはサーファーズイヤヤー（外耳道の変形）や外耳炎が多くみられたが、小森医師によりシリコン性の耳栓が導入され、以降、サーファーズイヤヤーの進行は止まっているとの事である。しかし依然として海女の耳鼻咽喉科領域の訴えは多く（鼻が通らない、耳抜きすると痛い、耳が痛い、聞こえにくい、痒いなど）、年に1回の耳鼻咽喉科健診は非常に重要であると言える。また、島民の中ではすっかりお馴染みであり、和やかで笑いにあふれた診療風景から、長年この総合診療に参加して頂いている小森医師と患者間の厚い信頼関係が伺えた。

27名の受診者で異常所見の内容は、外耳道炎や鼻ポリープなど軽症のものが全てであった。精査や継続的な治療が必要となるケースはなかったが、鼻ポリープに関しては1年後の健診時に再診が必要との事であった。

また最近、舳倉島にも新たな若い世代の海女さん達が働き始めており、これらの人達は耳栓を使用する習慣が無い。耳鼻科は若い年代の受診者も他科と比し多く、将来の事を見据え、耳栓の導入を進めていく事も重要だと言える。

<整形外科>

整形外科は、今年度は新たに山本医師に担当して頂いた。島民の高齢化が進み、肩・腰・膝などの痛みを訴える島民が非常に多く、日常診療では的確な治療およびアドバイスが行えていないと思われた為、6

年前から実施されているものである。昨年度は来て頂く予定であった先生の急用で行う事ができなかったが、島民のニーズも高く、今年度は地域医療推進室のご尽力により、無事行う事ができた。一昨年同様レントゲン室で問診を行い、適宜レントゲン撮影を施行して一人一人の症状にあわせた生活上の注意やアドバイス、治療をして頂いた。レントゲン撮影は市立輪島病院の古田診療放射線技師にご協力頂き、スムーズで質の高いレントゲン撮影を実施する事ができた。所長自身、整形外科領域の撮影はやはり困難で上手に撮影できない事も多々あり、大変有意義であった。

受診者 35 名で、変形性腰椎・股関節・膝関節・肩関節症、頸椎症、椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症、肩関節周囲炎、腰椎すべり症、腱鞘炎などが認められた。処置や注射を実施された方は 15 名（42.9%）であった。また、高齢化に伴い骨粗鬆症が目立ち、1 名には BP 製剤が導入となった。下肢の筋委縮や下肢の筋力低下を指摘された受診者もあり、1 名は山本先生に御紹介差し上げ、1 名は手術を受けた金沢医科大学を受診して頂く方針となった。

対症療法（内服加療）を提案して頂いたり、詳細な生活指導・リハビリ指導なども含め、専門的アドバイスを頂いたりした。受診者にも非常に好評であり、困った際には山本先生宛に紹介状を書いてほしい等の声も聞かれた。いずれにしても島民にとって 1 年越しの開催であり、非常にありがたいとの声が多数あり、来年度以降も是非整形外科診療を継続して頂きたいと切に願っている。

<特定健診、保健指導>

昨年度に引き続き、本年度も輪島市の特定健診を舳倉島総合診療の一部として開催した。対象者は国民健康保険加入者の 40～74 歳の方で、実施項目は問診、身長、体重、腹囲、血圧測定、検尿、血液検査である。市立輪島病院木下事務次長、浜高臨床検査技師、山本臨床検査技師、谷臨床検査技師にご協力頂き、保育所を使用し、測定・採血を行った。

受診者は女性 9 名、男性 8 名となった。年齢層が上がるにつれ受診者は減少傾向であるが、60 代を越えた頃から持病の為に当診療所や輪島病院、金沢循環器病院に定期通院している島民の割合が増えるためと思われる。昨年同様、今年度も特定健診の受診者の多くは普段診療所や病院を定期受診する機会のない方たちもあり、特定健診の意義は果たせたのではないだろうか。また今年度で 4 回目の開催になることもあり、広報の段階でも「特定健診だけは一応受けておくかな」という声も聞かれた。特定健診の認知度が少しずつ上がっており、島民の健康意識の向上に貢献していると感じた場面であった。

一方で特定健診のシステムについては未だ十分な理解がされていない印象であった。受診票の発行は輪島市から各世帯に郵送される為、持っているつもりが当日になって受診票が無いというケースが散見された。また保険証が島にはないというケースも目立った。来年度は早い段階から「受診票は住民票のある方の家に届くため、受診の為に必ず持ってきてもらう。一度島で確認し、分かりやすい場所に保管しておく」ということを広報する可能性がありそうである。また保険証に関しても、普段の島での生活において使うことがほぼ皆無な為、輪島に置いてきてしまっている。「生活する場所にしっかりと保険証をおいておく」ことを広報しておくことも重要であると言える。

<ピークフロー健診>

今年度、初の試みとしてピークフローのスクリーニングを実施した。

対象は総合診療前にピックアップし、今年度はリスクの高い人および希望者のみの検査となった。

検査器具、時間等の関係から検査人数は 8 人と少なかったが、異常が見つかったのは 5 名と半数を超え、今後はこの結果を生かし、更なる精査や必要があれば輪島病院などで呼吸機能検査を受けて頂く方針としている。舳倉島での喫煙率の高さを考慮すると、今回検査を行わなかった人に対しても、自覚症状がある人等を対象として、日常診療においても検査を進めていく事が重要になってくると言える。

7. 反省点

1 日目終了後に反省会が行われ、様々な意見が交わされた。以下はその要点とそれに対する所長の私見およびその他の問題点である。来年度以降の実施に役立てて頂ければ幸いである。

① 受付・待合の問題点と対策

昨年同様、開始前より受診者が殺到し、開始直後には案内などで混乱を生じる事も見受けられたが、昨年と比し、落ち着いていた印象であった。整理券を利用し、看護師さんの呼び出しを番号で統一。順次所長もフォローに入る形で滞りなく行えた印象であった。ただ、内科受診の際に心電図・レントゲンを撮っていない人が散見され、再度撮りに行ってもらうシーンが見受けられた。

こちらに関しては、案として

(1) 病院のように案内票を作り、もってもらおう。

という案が挙げたが、受診者が特定されず、また健診以前にレントゲン・心電図の検査をしてしまっている人や片方だけしている人もいる。内科は受けず他科のみ受けたい人もいる点を踏まえると事前に作成するのは困難であり、これに関しては今後の検討課題と言える。今回は全ての部署に事前に撮影を済ませたかどうかのリストを配ったが、当日検査をしたかどうかの確認が困難であった為、このような事が起こったと思われる。

一つの案としては、受診票を全受診者に配り、受付で必要なものに色をつけ、各部署にその色のところにチェックを入れてもらうなどが良いかとも考えられた。これに関しては、来年度の所長に判断を任せたい。また、呼び出しに関しては、ドアに現在呼び出している番号を貼るという案があり、これは非常に有用だと思われるので、是非参考にして頂ければと思う。

② 設備上の問題と対策

(耳鼻科のファイバー使用+胸部レントゲン+遠心分離機の使用)が重なるとブレーカーが飛ぶ危険があるとの事が昨年度判明した。耳鼻科のファイバーの使用と胸部レントゲンは部屋も隣通しなので耳鼻科健診の補助スタッフが確認しながら使用時間が重ならないように注意する必要がある。

また、遠心分離を今年度は心電図検査が落ち着いた頃に、保育所で行う事でスムーズに行う事が出来た。来年度以降もこれで良いように思われる。

③ 輪島市の特定健診：

受診票再発行には手続きに時間がかかる。→島では受診票も保険証も持っていない方が多かった。

大部分は6月中旬から島に定住されるため、過去2年間の反省を踏まえて広報していたが、なおも受診票を持っていない方がいた為、更なる周知が必要である。

④ 上部消化管内視鏡検査について

3年連続で施行していない。検査の潜在的なリスクや、輪島病院へのアクセスが以前よりも良くなっている事を考慮すれば、島の健診で行う必然性はないと思われる。島民からの希望がある一方で、もう島では施行しない方針もかなり広がっている。今後もこの方針でよいのではないだろうか。

⑤ プライバシーについて

整形外科診療については場所の関係上、例年レントゲン室の一面で行う事になっている。整形外科診療は時間がかかり、時間とともに待合時間も長くなる。また、レントゲン撮影は内科受診にも必要である事から、本年度は途中からレントゲン撮影と整形外科診察を同時進行で行う事とした。しかしながら仕切りが現在は小さなもの1つとなっており、特に男性と女性の受診者が同時になった際のプライバシーが問題だとの指摘があった。

これに関しては、診察場所の移動が困難な事より、来年度以降は物品として仕切り用の大きなカーテンなどを用意する事が望ましいと考えられる。被爆の面から考えても、遮蔽性の高いものが望ましい。

⑥ スタッフ確保の問題点と対策

今年度は当初は整形外科の健診は庭田先生にお願いしていたが、所用で参加困難となり、急遽山本先生に来て頂く運びとなった。昨年度は同様の状況で代わりの医師が見つからず結果的に開催できなかった。この点については今後の(特に長いスパンでの)舳倉島総合健診の継続を考える上で、多くの検討すべき課題を含んでいると感じる。

現在に至るまで、この健診は多くの先生方の御厚意により存続してきた。一方で、前回・今回の健診で、ひとたび先生のご都合がつかなければその診療科は健診の開催が困難となることに改めて気付かされた。石川県の自治医科大学卒業生の進路は多岐であるが、総合健診で提供する事が望まれる診療科（耳鼻科、整形外科、眼科など）については、近年専攻している卒業生が少ないのが現状である。一方で、舢倉島においては前記の診療科は専門性が高く、診療所長の普段の診療でカバーするのは非常に困難でありながら、島民のニーズが高い。

1年に1回の総合診療は非常に重要な診療機会となるが、総合健診の運営を実質的に一任されている診療所長は卒後3年目の医師であり、自治医科大学の卒業生以外に健診医をお願いすることは難しく、また船が出なかった場合などの補償も不可能である。

このように健診医の確保は不安定性をはらんでおり、今後も安定して健診を継続していく為には第一候補となる先生のご都合がつかない場合の対策を予め検討していく必要があると思われる。

1つの方法としては、今回ご依頼させて頂いたように地域医療推進室から医師会などを通じて（今回は金沢大学附属病院）健診医の確保の申し出をしてもらう事である。

その他、今回自治医大の先輩の諸先生方に相談した際に、この総合診療に参加したいという先生方が非常に多いと感じた。そういった意向も踏まえ、その先生方が専攻する科を上手く調整し、健診を1年毎でとらえるのみならず、2年3年と数年間のスパンでとらえる事も重要かと思われた。その際には自分を含め、総合診療を経験してきた先輩方の協力も必要になると思われる。

8. まとめ

本年度で舢倉島総合診療は32回目となった。これまでこの総合診療が継続されてきたのは石川県、輪島市の協力があり、そして長年診療を支えてこられた先生方やスタッフの方々、さらには準備にご協力頂いた関係各位の情熱、ご尽力によるものである。

この健診に対する住民の期待と信頼は大変大きく、専門的な診療を受けられる総合診療は、舢倉島診療において根幹をなしていると言える。夏期舢倉島住民の人口構成を見ると、65歳以上が約半数、75歳以上の後期高齢者が約30%と高齢化社会となっており、この地域特有の職業による潜水に伴う風土病に加えて、生活習慣病、心疾患、動脈硬化性疾患の予防・早期発見、整形外科疾患も重要な位置を占めてきている。また特定健診、保健指導に関しては、これからの島を支える若年者・中年者の健康保持・増進にアプローチできる良い機会であり、今後も継続することを切に願っている。

住民のニーズを明確に見極め、医療や保健など各方面と連携をとりながら、今後も総合診療を行っていく事が舢倉診療所長に課せられた命題と考える。

9. 謝辞

本年度も無事に舢倉島夏期総合診療を行う事ができました。参加して頂いたスタッフの皆様、ご協力頂いた大変多くの関係機関、関係各位の方々にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。この総合診療を通して、島民が自らの健康を意識する契機となれば幸いです。所長自身も日常診療を省みるとても良い機会となり、今後十分に生かしていく所存です。またスタッフの皆様とお会いでき、とても良い2日間を過ごす事ができました。所長そして家族・島民一同深く感謝致しております。

今後とも舢倉島島民の健康増進のためお力添えをいただきますよう何卒宜しくお願い申し上げます。

舢倉診療所長 中島 崇志

平成 25 年度診療スタッフ集合写真（H25.8.4 出航前のニューへぐら前にて）

